

国立科学博物館

賛助会費を使った活動

皆様の支援を仰いで集められた国立科学博物館賛助会費は、地域の博物館等と連携したイベント、標本資料の製作・購入・保存・修復に使用させていただきました。その活動を紹介します。

地域の博物館等と連携したイベント

国立科学博物館では、各地の博物館等と連携して、当館の標本を活用した展示を行ったり、講演会や学習プログラムを行ったりしています。これらの事業を通じて、地域の博物館等を支援し、人々に地域の自然などに興味をもってもらうことにより、広く自然科学を振興することを目的としています。

平成30年度は、大分県で2箇所、北海道で2箇所、展覧会を開きました。

国立科学博物館・コラボミュージアム

2016年の熊本・大分地震で被災を受けた熊本県・大分県への支援として、2018年度は大分県において、現地の人々を元気づける目的で恐竜をテーマとした展覧会を行いました。大分県には科学系の展示を持つ博物館が非常に少なく、県民が科学的な標本などを見る機会が少ないという状況もあり、国立の館としてそのような地域への支援を行うということもねらいの一つです。2019年度は熊本県において展覧会を行う予定です。

国立科学博物館・コラボミュージアム in 大分

「とりになったきょうりゅうのはなし -OPAMに恐竜がやってきた!-」

会期：2019年2月2日(土)～3月3日(日) 会場：大分県立美術館

絵本をテーマとして、絵本を標本で再現するという展示を行いました。会期中、恐竜をテーマとした美術館ならではの創作的なワークショップを行ったり、地元で活動している「児童文学と科学読物の会」と連携した絵本に関連するイベントを実施しました。



展示の様子



絵本関連イベント



展示会場でのギャラリートーク

国立科学博物館・コラボミュージアム in 日田

「とりになったきょうりゅうのはなし ～化石が語る恐竜進化のものがたり～」

会期：2019年3月16日(土)～5月12日(日)

会場：日田市立博物館

自然史資料を持つ日田市では、当館で準備した展示だけでなく、日田市立博物館の資料を活用した展示も行いました。また日田市は2017年の豪雨でも被害を受けており、校舎が被災してしまった小学校の生徒さんのために、当館コレクションディレクターの真鍋が特別授業を行いました。



展示の様子



小学生への特別授業

国立科学博物館・巡回ミュージアム

国立科学博物館の有する人的・物的資源を活用して、巡回展示や学習プログラム等を地域博物館と協働して実施し、学芸員の資質向上やノウハウの共有などを図る事業を実施いたしました。本年度は北海道博物館と北網圏北見文化センターにおいて「生命のれきし～君につながるものがたり～」という、化石を中心とした巡回展示を実施しています。

※この事業は、文部科学省の委託事業とも連携して実施しています。

国立科学博物館・巡回ミュージアム

「生命のれきし～君につながるものがたり～」

会期：2018年12月8日(土)～2019年1月20日(日)

会場：北海道博物館



展示の様子



展示の様子



絵本関連イベント

国立科学博物館・巡回ミュージアム

「生命のれきし～君につながるものがたり～」

会期：2019年1月29日(火)～3月3日(日)

会場：北網圏北見文化センター



展示の様子



展示の様子



体験型展示

資料の製作・修復・保存処理

賛助会費の使途として、資料の修復・保存処理に加え、製作にも充てさせていただきました。

資料(動物のはく製)の製作

国立科学博物館は、2016年度に「東京動物園協会と国立科学博物館との動物等の研究に関する協定書」を締結したことにより、動物園の死亡検体が優先的に当館に提供され、年間100件程度が譲渡されています。生物多様性が危ぶまれる今日、動物園からの検体は研究材料として重要であり、当館で毛皮や骨格標本にするとともに、DNAサンプルとしても保管しています。このような標本資料の充実に資するため、2018年度よりその一部について賛助会費を使わせていただきました。

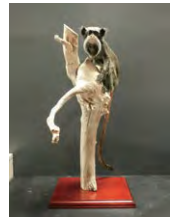
エンペラータマリン(右)は南米大陸のアマゾン川上流地域に分布する新世界ザル類であり、白い口髭が印象的な種で、この特徴から「皇帝」を意味する「エンペラー」の和名を持ちます。

ブラッサグエノン(左)はアフリカ中央部に分布する旧世界ザル類オナガザル科の一種で、グエノン類は頭部の毛色が特徴的なものも多く、本種では額のオレンジ色が美しいです。背面の刺しが入った長毛も美しい種です。

霊長目は全ての種がワシントン条約によって国外からの導入が困難であり、今後動物園などでも見られなくなる可能性が懸念されていることから、当館の展示資料として今後有効に活用します。



ブラッサグエノン



エンペラータマリン

博物図譜の修復

当館が所蔵する「博物図譜」は、主に幕末から明治期にかけて、動物や植物などを科学的視点から描いたものです。対象物の細部にまで目を配って彩色豊かに描かれ、名称や産地、入手方法などが記載されているものもあり、当時の貴重な情報を得ることができます。このため博物図譜は、学術的資料と絵画としての価値を同時にあわせものであるといえますが、当館の長い歴史において保存環境を維持することが困難であった不幸な時代があり、破損・汚損したものや永続して保存するために処理が必要なものがあります。

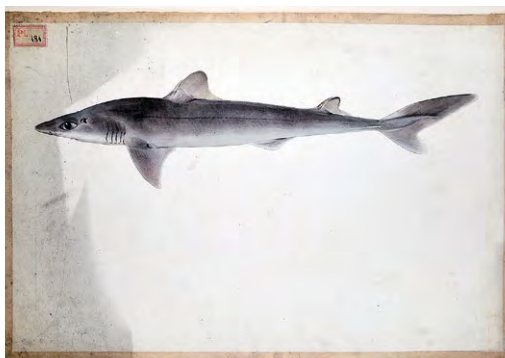
今回の修復では色落ちを防ぐ剥離止め、カビやほこりの除去、資料の補強のための裏打ちや折れ当て等を行いました。また、保存用の桐箱があるものは除菌し、その他は中性紙の保存箱へ収納するといった対応も行いました。



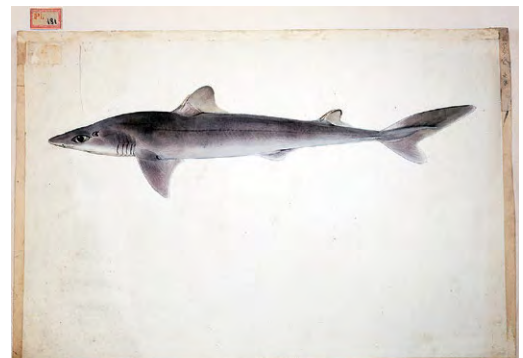
イトヒキアジ



修復前 修復後



角鮫の一種写生図



修復前 修復後

ガラス乾板の保存処理

「ガラス乾板」とは、フィルムで写真撮影する前に使われていた技術であり、日本では主に幕末から戦前まで使われていたものです。当館では従来「ガラス乾板」を紙焼きしてアルバム化する形で保存処理を実施してきましたが、今年度は「ガラス乾板」をスキャナーで読取りデジタル化による保存処理を実施しました。今回ご紹介する画像は「ガラス乾板」から、戦前の当館の様子を写したものです。写真は上野本館開館日の様子（1931年11月）。



国立科学博物館の賛助会員制度

賛助会を通じて、国立科学博物館の活動へご支援ご協力を！

賛助会員には、個人会員と団体会員があり、年ごとに会員を更新する寄付制度です。

広く皆様からのご支援を仰ぎ、青少年の自然科学等への興味・関心の向上に関する事業、地域博物館等と連携したイベント、標本資料の製作、購入、保存、修復等の事業の推進を図って参りたいと考えております。この趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

賛助会員に入会するとさまざまな優待があります。

- ◆ 常設展と付属施設への無料入館（入園）
- ◆ 特別展の招待券を進呈
- ◆ ミュージアムショップ・レストラン割引
- ◆ 賛助会員のつどいにおいて賛助会費による活動の報告や特別展の見学会を実施（左、中央）
- ◆ 希望により、お名前を賛助会員のボード（右）、当館のホームページなどに掲載します。
- ◆ このほか、賛助会員の種類により、さまざまな優待があります。くわしくは、「賛助会員入会のご案内」、当館ホームページをご覧ください。



■ お問合せ・パンフレットのご請求はこちらから
お願いします。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
独立行政法人国立科学博物館
賛助会員担当

電 話：03-3822-0111（月～金）

ファクス：03-5814-9899

メールアドレス：sanjo@kahaku.go.jp

ホームページ：http://www.kahaku.go.jp



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science